



しました。そのきっかけになったのは母性看護学の授業でた課題です。自分が産まれた時の助産師との関わりを母親へ聞くという課題でした。助産師に対して良い思い出がないと話すと母の姿を見て、出産は人生のライブイベントの中でもとても大きなことですが、その思い出がたまたま辛かった、悲しかった、わかってもらえなかったというマイナスなイメージで終わってしまっているのは残念なことだと思います。少しでも自分の自信や家族の絆がさらに深まるような働きかけをしたいと思い、助産師課程を専攻しました。

助産師外来では妊婦さんが出産や育児に向けて主体的に過ごせるように、エコーをしながら赤ちゃんの様子を見たり、疑問や不安を聞いたりします。助産師外来は今年から担当できることになったので、より密にママ、パパの話を聞き出産や育児に向けて支援できるように力を入れて頑張っています。



助産師として早くも5年目を迎えます。今までの経験をもとによりその人らしさを大切に、関わったお母さんたちが自信を持って自分らしい出産ができたと思えるようにサポートをしていきたいと考えています。また、2023年11月に新病院が開院予定です。産科病棟と小児科病棟が併設され、NICU（新生児集中治療室）だけでなくGCU（新生児回復治療室）が配置されるため周産期連携病院として、より充実した機能を持つこととなります。医療介入が必要な赤ちゃんだけでなく、その家族のケアも行えるように関わりを持つていきたいと思っています。

— この先の目標について —

**自信を持って
自分らしい出産ができた
と思えるようなサポートを**

両親学級や育児教室を開催しています。



活躍する卒業生

その人らしさを大切に

2019年3月 健康科学部看護学科(助産師課程) 卒業
青海市立総合病院勤務

H.S. さん

— 本学へ入学した理由を教えてください —

高校の先生から校風や看護師という職業が向いているのではないかと勧められたのをきっかけにオープンキャンパスに参加しました。その際に学部長のお話の中で「その人らしさ」を大切に「病気ではなくその人を見る」という言葉を聞き、漠然と医療者になりたい、人を助ける仕事をしたいと思っていた自分の方向性が見えた感覚がしたため入学しようと思いました。

— 東京家政大学で学んだことを教えてください —

その人らしさを大切にするということです。助産師は妊婦さんと赤ちゃんが安全に妊娠、出産を終え、その後の育児期においても健康に過ごせるように支援していく職業です。妊娠や出産の経過は個人差が大きく、誰一人として同じ過程をたどる方はいません。授業で学んだことをもとに、実際に分娩の介助をする病院実習を行いました。初めのうちは産婦さんに関わる時間よりも教材と今の状態を見比べて正常なのか、異常なのかを考える時間が多くなってしまっていました。妊娠週数や分娩の経過など基準となる指標はありませんが、そこに当てはめるだけでなく、その方自身を実際に見て、触れて、本当に必要としている支援は何かを考え実践する必要があることを学びました。



— 現在のお仕事について教えてください —

私が勤務している青海市立総合病院の産婦人科病棟は大きく①から④の部署に分かれていて、日によって担当場所が変わります。

- ① **病棟** ↓ 主に、婦人科系の疾患や癌の手術前後の患者さん、化学療法の患者さん、切迫早産や重症悪阻（つわり）の妊婦さんなどのケアを行います。また、その他の内科や外科の女性の患者さんも入院されていますので助産師、看護師両方の視点でケアをしています。
- ② **新生児、NICU** ↓ 出産直後の新生児のケアから産後の母の育児手技獲得に向けての援助。NICUでは早産児や呼吸のサポートが必要な赤ちゃんのケアなどを行なっています。
- ③ **分娩室** ↓ 出産を控えた産婦さんの援助や分娩の介助、分娩後の褥婦さんのケアなどを行っています。
- ④ **妊婦健診、助産師外来** ↓ 妊婦健診では体や心の面での不安など、出産に向けての不安などがないかを聞き、アドバイスをします。医師の診察があるため、医師と妊婦さんの架け橋になれるように悩みや疑問を聞き出すことも必要です。

— これから入学する新入生、 今、学んでいる在学生へ伝えたい 大学時代の過ごし方を教えてください —

看護学科は授業数も課題の量も多く皆さんが思い描いている大学生像とは異なることが多くあるかと思いますが、私も、高校時代の友だちが夏休みなどの長期休暇を楽しんでいる様子を見るといいなと思う気持ちはありましたが、学生生活を辞めたいと思ったことがなかったのは、周囲に同じ夢を持った学生がたくさんいて、自分も頑張ろうと常日頃から感じることができ、切磋琢磨できる環境であったことが大きいと思います。また、病院実習が始まると自分になろうとしている看護師や助産師という実際の仕事が見え、自分に務まるのかどうか不安に思い、気持ちが揺らぐ瞬間がたくさん出てくると思います。そんな時に周りを見渡せば、同じ夢に向かって頑張る仲間たちの姿があります。ときには愚痴を聞いてもらったり、弱音を吐いたりしながら自分のなりたい看護師、助産師、保健師などの姿を思い描きながら頑張っている姿です！

**家族の絆が深まるような
働きかけを**

— 助産師を目指そうと思ったきっかけを 教えてください —

助産師という仕事は大学に入学してから初めて意識